

## 環境行動計画(エンドレス グリーン プログラム)

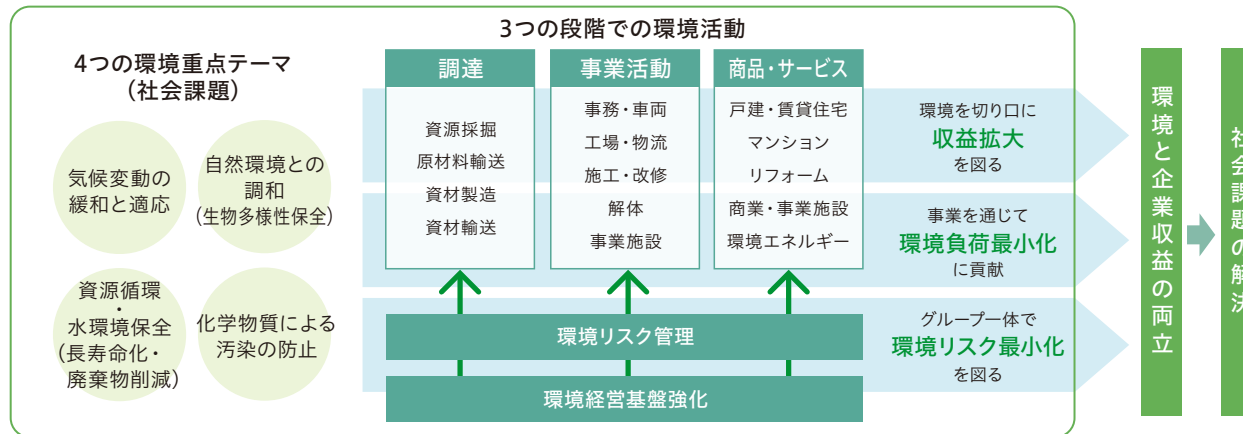
### 環境行動計画の考え方とあゆみ

大和ハウスグループでは、環境長期ビジョンの実現に向け、環境長期ビジョンからバックカスティング(逆算)した、2030年のマイルストーンを設置し、中期経営計画の対象期間に合わせて、およそ3~5カ年ごとに具体的な目標と計画を「エンドレスグリーン プログラム(EGP)」として策定し、活動を推進しています。



### 環境行動計画の全体像

EGPでは、ステークホルダーの関心度および事業との関連性が高い「4つの環境重点テーマ(社会課題)」を特定し、これらに対して「調達」、「事業活動」、「商品・サービス」の3つの段階において取り組みを進めます。



### 「エンドレスグリーンプログラム2026」の重点方針

- “まちづくりのカーボンニュートラル”実現に向けて、すべての事業において原則、全棟ZEH・ZEB化、全棟太陽光発電搭載を推進する
- “事業活動のカーボンニュートラル”実現に向けて、新築自社施設を原則全棟ZEB化するとともに、2023年度のRE100達成を目指す
- サプライヤーと「カーボンニュートラル」「森林破壊ゼロ」「ゼロエミッション」の方針を共有し、環境を起点にサプライチェーンの強靱化を図る
- ESG評価のさらなる向上に向けて、社会・ステークホルダーの期待に応える取り組みを強化する(環境貢献型事業の拡大、気候変動リスクへの適応)
- 「EGP2026」を“より早く”実践するため、環境経営基盤を整える(環境マネジメント体制の強化、環境人財の育成)


## 環境行動計画(エンドレス グリーン プログラム 2026)

「エンドレス グリーン プログラム 2026」(2022～2026年度)は、「7つのチャレンジ・ゼロ」をふまえ、2030年のマイルストーンからのバックキャスト思考に基づき策定しました。

“チャレンジ・ゼロ”	EGP2026の主要施策	主な指標	2021年度実績	2022年度目標	2026年度目標	2030年マイルストーン (環境長期ビジョン)
1 まちづくりにおけるCO <sub>2</sub>	●新築建物における原則、全棟太陽光発電の搭載	GHG排出量削減率(2015年度比)	29.8%	35%	54%	63%
	●新築建物における原則、全棟ZEH・ZEB化の推進	ZEH率/ZEH-M率	53%/5%	80%/10%	90%/50%	原則100%/原則100%
		ZEB率	38%	40%	60%	原則100%
2 事業活動におけるCO <sub>2</sub>	●新築自社施設の原則、全棟ZEB化および太陽光発電の搭載	GHG排出量削減率(2015年度比)	20.8%	25%	55%	70%
	●既存自社施設における省エネ設備への更新、建設重機の電化	エネルギー効率(2015年度比)	1.47倍	1.54倍	1.9倍	2.0倍
	●自社再エネ発電所由来の再エネ電気を活用し、RE100を達成	再エネ利用率	18.2%	30%	100%	100%
	●業務用車両におけるクリーンエネルギー自動車の導入促進	クリーンエネルギー自動車導入率	0.3%	1%	15%	30%
3 サプライチェーンにおけるCO <sub>2</sub>	●主要サプライヤーとのエンゲージメント強化(脱炭素WG、脱炭素ダイアログ)	主要サプライヤーによるSBT水準のGHG削減目標設定率	34%	40%	90%	主要サプライヤーによるGHG削減目標達成
	●主要サプライヤーに対する省エネ、創エネソリューションの提案強化	省エネ・創エネソリューション契約件数	—	5件	50件	
4 森林破壊	●森林破壊リスクのある木材の調達回避	Cランク木材比率	2.7%	3%	0%	0%
	●サプライヤー向け方針説明会の実施	森林破壊ゼロ方針設定率(一次サプライヤー)	—	30%	90%	100%
	●針葉樹型枠合板の採用推進	持続可能な型枠合板採用率	—	—	20%	100%
5 生物多様性損失	●外構植栽ガイドラインに基づく外構提案、ABINC認証取得の推進	生態系に配慮した緑被面積(2021年度比)	—	+20万㎡	+100万㎡	+200万㎡
	●自社サイトの生物多様性評価、重要サイトの生物多様性保全計画の策定	重要サイトの保全計画策定率	—	重要サイト特定	100%	100%
	●プラ素材配布品の脱プラ素材への代替化	脱プラ素材への代替率	85%	100%	100%	100%
6 資源利用・廃棄物	●リブネス事業を通じた既存物件の有効活用および長寿命化	資産有効活用促進件数	3,989件	4,000件	4,500件	2026年度に策定
		資産長寿命化促進件数	3,246件	4,500件	4,900件	2026年度に策定
	●工場における廃プラのマテリアルリサイクルへの転換	廃プラのマテリアルリサイクル率	10.9%	10%	30%	2026年度に策定
	●ホテルにおけるプラ製アメニティ類の使用量削減およびリサイクルの推進	プラ新法対象物品削減率(2021年度比)/リサイクル率	—/—	10%/3%	50%/50%	2026年度に策定/100%
	●主要サプライヤーとのエンゲージメント強化(ゼロエミWG)	主要サプライヤーによる廃棄物ゼロエミ目標設定率	34.5%	50%	90%	主要サプライヤーによる廃棄物ゼロエミ目標達成
7 水リスク	●居住およびホテル用途における節水器具の採用徹底	節水器具採用率	89.9%	93%	98%	100%
	●事業用施設における節水活動の推進	売上高あたりの水使用量削減率(2012年度比)	46.8%	36%	40%	45%
	●主要サプライヤーにおける水リスクの調査および低減	水リスク調査実施率	—	60%	100%	水リスク対応完了
環境マネジメント	●7つのチャレンジ・ゼロを通じた既存事業の機会拡大、付加価値向上	環境貢献型事業売上高	0.95兆円	1.2兆円	1.6兆円	
	●従業員の環境リテラシー、環境マインドの向上	eco検定取得者数	19,033名	21,000名	38,000名	
	●バリューチェーン全体での気候変動リスクへの適応(サプライチェーン、生産・施工現場、自社運営施設、商品開発)	気候変動の適応策実施状況	—	—	実施完了	

## 環境行動計画(エンドレス グリーン プログラム 2021)

「エンドレス グリーン プログラム 2021」(2019～2021年度)では、新たに海外も含めた全グループ会社を対象に「環境と企業収益の両立」に向けて、「ライフサイクル思考に基づくグループ・グローバル一体での環境経営の推進」をさらに加速。なかでも脱炭素化に向けた取り組みは、第6次中期経営計画(2019～2021年度)でも方針の一つに掲げ、重点を置いています。なお、当社グループでは事業における重要性和社会からの要請や期待を考慮してマテリアリティ(重要課題)を抽出、有識者からのご意見を参考に特定し、環境行動計画策定時に見直しを行っています。

 **マテリアリティ(重要課題)の特定**

### 重点方針

- SBT・EP100・RE100の実現に向け、**商品と事業活動の両面から“脱炭素”を推進**
- サプライチェーンにおける環境リスク低減**に向け、win-winの取り組みを協働
- 事業競争力の向上**に向け、**環境配慮商品・サービスの開発・普及を推進**
- 環境ブランド・ESG評価の向上**に向け、**戦略的な環境コミュニケーションを推進**
- 環境経営の推進**に向け、**グループ・グローバル一体での環境マネジメントを強化**

### 「エンドレス グリーン プログラム 2021」を振り返って

EGP2021においては、コロナ禍で目まぐるしく変化する事業環境のなか、環境活動の推進に苦慮する場面もありましたが、きめ細かなマネジメントによりPDCAを回した結果、気候変動関連を中心に主要な目標を概ね達成することができました。これは、この3年間で「eco検定」の取得を軸に従業員の環境リテラシーの向上を図り、2020年に見直した「環境長期ビジョン」の共有に努めてきたことが、現場レベルでの自律的な環境活動につながった成果の現れと考えています。

一方、EGP2021の計画期間中には、日本政府から「2050年カーボンニュートラル宣言」が




表明され、そのマイルストーンとして2030年の野心的な中間目標が掲げられました。そのなかでは、家庭・業務部門が大きな削減ターゲットとされ、太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーの拡大にも大きな期待が寄せられています。これらは、まさに当社グループの事業領域と密接に関わっており、改めて私たちの役割と責任の大きさを再認識しているところです。


















これらをふまえ、2022年度からスタートするEGP2026では、引き続き、カーボンニュートラルを最重要テーマに、バリューチェーンを通じた野心的な目標を掲げて取り組みを加速させます。また、それらと連動してサーキュラーエコノミーやネイチャーポジティブに向けた取り組みにも注力していきます。




大和ハウス工業  
環境部長 小山 勝弘

### 「エンドレス グリーン プログラム 2021」の主な目標と実績

 : 2021年度目標達成  
 : 2021年度目標未達成(達成率90%以上)  
 : 2021年度目標未達成(達成率90%未満)

重点テーマ	段階	管理指標	2018年度実績	2021年度目標	2021年度実績	
総合 (環境貢献型事業の拡大)	商品・サービス	● 環境貢献事業の売上高	11,172億円	14,000億円	13,969億円	
	調達	● 主要サプライヤーの温室効果ガス削減目標設定率	54%	90%	87.7%	
気候変動の 緩和と適応	事業活動	● GHG排出量(売上高あたり)2015年度比	26.3%削減	35%削減	41.4%削減	
	事業活動	● エネルギー効率(EP100)2015年度比	1.27倍	1.4倍	1.47倍	
	事業活動	● 再エネ利用率(RE100) ● 再エネ発電率	0.23%   84%	10%   100%	18.2%   131%	 
	商品・サービス	● 商品の使用によるGHG排出量(面積あたり)2015年度比	5.1%削減	6%削減	34.9%削減	
	商品・サービス	● ZEH販売率 ● ZEB販売率	29%   22%	70%   40%	63%   44.1%	 
	商品・サービス	● グリーンビルディング認証取得率	15%	80%	91.6%	
	自然環境との調和	調達	● Cランク木材比率	2.1%	0.0%	1.1%
資源循環	事業活動	● 建設廃棄物排出量(m <sup>3</sup> あたり)/新築	19.3kg/m <sup>3</sup>	19kg/m <sup>3</sup>	20.0kg/m <sup>3</sup>	
	事業活動	● 建設廃棄物のリサイクル率	96.6%	97%以上	97.7%	
	事業活動	● 廃プラスチックのリサイクル率	90.1%	90%以上	93.4%	
水環境保全	事業活動	● 売上高あたりの水使用量 2012年度比	28.2%削減	34%削減	46.8%削減	
化学物質による 汚染の防止	事業活動	● PRTR対象化学物質排出・移動量(売上高あたり)2012年度比	49.9%削減	57%削減	69.3%削減	
	事業活動	● VOC排出量(売上高あたり)2013年度比	20.4%削減	15%削減	36.8%削減	
環境経営基盤強化	環境教育	● eco検定取得者数	4,402名	15,000名	19,033名	

 P145 環境行動計画の実績と自己評価